Densho Bato

でんしょ鳩

公益社団法人
北九州市障害福祉ボランティア協会
〒804-0067
北九州市戸畑区汐井町1-6 ウェルとばた6階
北九州市立東部障害者福祉会館内
TEL 093-882-6770　FAX 882-6771
E-mail:XLZ02133@nifty.ne.jp
URL:http://www.ksvk.jp/
◇郵便局振替口座／福岡 01740-4-8846
◇福岡銀行 戸畑支店 普通口座／2130527
公益社団法人北九州市障害福祉ボランティア協会

◇夢はオリンピック、パラリンピックへ　2～3P
ボランティア協会 常務理事　古賀　由美子

◆ソロプチミスト日本財団「社会ボランティア賞」受賞　4P
ガイドボランティアサークルゆう・あい　榎　正寿

◇ボランティアとしての実感～国際車椅子バスケットボール大会　4P
会場運営班サブリーダー　森下　佳祐

◆ボランティア物語　80　5P　好評連載中!!
「権利」って②　宮﨑　浩

◇北九州市福祉のまちづくりネットワーク　5P
リレーレポート㉗
小倉駅周辺の道路点検に参加して
視覚障害者福祉協会　澤田　ハツエ

◆MYフレンド　6P
事務局職員　大平　美代

◇お知らせ　7P

◆チャリ～～ン　7P
ボラ協正会員　永松　玲子

◇協会カレンダー　8P

座標軸

現在、小説家池井戸潤さんの「下町ロケット2ガウディ計画」がテレビ化され、高視聴率を上げている。内容は、心臓に病気を持っている子どもたちのための心臓弁を開発していくドラマだが、地位や名誉に群がる人たちのさまざまな妨害が立ち塞がる中、中小企業の社長が目の前に支援を求めている子どもたちを救うため、情熱を持って開発に取り組んでいくドラマだ。

北九州市でも以前、「心臓病の子どもを守る会」が活発に活動していたことを思い出す。障害者福祉の分野でもまだ多くの偏見、無理解のバリアを解決していかないといけない中、支援に関わる人が減ってきているように思う。人は共感しないことには動かない。今、活動に求められているのは、ドラマの中の情熱を持った企業や社長のように、人の心を動かすリーダーシップかもしれない。（H・T）

＊年末は12月28日㈪（午後5時まで）年始は1月4日㈪から＊

夢はオリンピック・パラリンピックへ

ボランティア協会　常務理事　古賀 由美子

今年の秋も様々なスポーツが各地で開催されましたが、障害福祉の世界でも、この時期は国際車椅子バスケットボール大会や全国ふうせんバレーボール大会が行われました。

ボランティア協会では、バスケットボール大会については、毎年会場運営ボランティアのお世話団体として全面的に関わっています。ふうせんバレーボール大会もボランティア協会から巣立っていった活動として今でも後援団体として後方支援をしています。

拡がれ　ふうせんの輪

11月23日に第26回全国ふうせんバレーボール大会が48チーム、選手スタッフ併せて総勢630名で開催されました。

今年の大会は、九州の各県や大阪から、また鳥取からの初参加もありました。また、エキシビションとして、韓国からの視察メンバーと市議会議員、選手がチームを組んでの交流試合なども行われました。

荒川杯に思いを込めて

ここで、皆さんにご報告があります。それは、今大会から「荒川孝一賞」と言う賞が創設されたことです。

ふうせんバレーマスコット

この荒川杯は、今年の4月に開催された「荒川孝一を偲ぶ会」の発起人会が偲ぶ会を終えて解散する際に、「こうやん（荒川孝一氏の通称）の名前を永く全国ふうせんバレーボール大会の中で残すため「荒川孝一賞」を設けてほしいという願いで、残ったお金を大会実行委員会に託したというものです。※荒川孝一氏／ふうせんバレーボール創始者の一人で昨年2月22日に死去。

この思いを受けて、日本ふうせんバレーボール協会（実行委員会）で話合いを重ねた結果、従来の4つのチーム賞に換えて「荒川孝一賞」が設けられ、荒川杯が準備されました。そして、スポーツとして勝敗の順位を競うことと併せて、ふうせんバレーボールが誕生した意義、当時の「こうやん」や関係者の思いをこれからも大切に伝え続けていきたいと、選考基準も以下のようになりました。

①障がいのあるプレーヤーの自主性を妨げることなくプレーができているか。

②障がいのあるプレーヤーとともにプレーを楽しむことが共有できているか。

③重度障がいの方の社会参加につながっているか。

記念すべき第一回目の荒川杯は、閉会式の中で長崎振興委員会チームに授与されました。

バリアフリーは拡がっているか

国際車椅子バスケットボール大会は2003年（平成15年）に始まって以来、今年で十三年目を迎えます。ボランティア協会では、その前年度の世界車椅子バスケットボール選手権大会「北九州ゴールドカップ」より関わりを持ってきましたが、特に国際大会からは会場運営ボランティアに関する事業を担当しています。そして、ややもすると、単なる「イベントのお手伝いさん」になりがちな運営ボランティアの役割と位置づけを整備し、主体的に関わるボランティア活動の推進に努めています。

この十三年の間に、中学生から高齢の方まで、また障害のある人も無い人も、多くのボランティアの皆さんに参加していただきました。こちらが意図したわけではないのに数回参加のベテランさんと今回初参加と

いう新人さんが同数程度割合の応募なので、毎回協力しあっての新しい絆が生まれているようです。

ふうせんバレーや車椅子バスケットでボランティア協会とも関わりが深い北九州市障害者スポーツセンターの有延忠剛所長に、東京オリンピック・パラリンピックへの思いも含めてコメントをいただきました。

車椅子バスケットボールやふうせんバレーボールに関わっていく中で、いかにそれぞれの障害者スポーツを点から面に繋いでいくか、相乗効果を生み出していくことができるかという視点を持つようにしています。例えば、車椅子バスケットボール大会の中で、他の障害者スポーツを紹介するとか、体験コーナーを作るという取り組みがあります。昨年の車椅子バスケットボール大会でふうせんバレーを紹介したところ、大会に参加していた韓国チームの選手団のスタッフにソウル市の障害者スポーツ協会の方がいて、これは素晴らしいということで、先日行われた第26回全国ふうせんバレーボール大会にソウル市障害者スポーツ協会の指導員が視察に来られました。来年のふうせんバレーボール全国大会には韓国チームが来るかもしれません。

いろいろなスポーツとのつながりは様々なタイミングや流れがあり簡単にはできませんが、ずっと続けていけば、それぞれの点がつながり、面になっていくのではないかと思っています。車椅子バスケットボール大会では今までの13回の大会とゴールドカップを含めて、入場者数がおおよそ延25万人となり、一回の大会で約一万三千人、ゴールドカップの時には八万人で、北九州市の約四人に一人の市民が、車椅子バスケットボールを見ているという数字になります。また単に知っているという人数ではもっと多くなるでしょう。バリアフリーがどこまでこの大会で進んだのか、それを計るのは難しいですが、大会を見た市民には感動というお土産を持って帰ってもらい、市民にバリアフリーという意識を持てるように働きかけられたのではないかと思っています。

車椅子バスケマスコット
ゴールド君

2020年へ向けて

２０１１年に東京オリンピック・パラリンピック招致委員会が設立され、２０１３年に誘致が決定。さらに２年後の２０１５年10月１日にはスポーツ庁が文部科学省の外局に設置されました。

これらの流れの中で、わが北九州市においても、車椅子バスケットボール、陸上、水泳など、パラリンピック出場に期待がかかる選手たちも現れ始めています。

さらに、北九州チャンピオンズカップ国際車椅子バスケットボール大会実行委員会では、東京２０２０でチームの中心メンバーとなっているであろう、今の若い世代を中心としたチーム編成による大会開催を行うとともに、東京パラリンピック参加選手団による事前合宿誘致に向けた動きも始まりつつあります。

一方、今から26年前に北九州で生まれた、障がいのある人もない人も誰もが参加できる全員参加のスポーツ「ふうせんバレーボール」を２０２０東京オリンピック・パラリンピックの中で紹介できる機会を模索したいと考えています。たやすいことではないかもしれませんが、単なるレクリエーション、単なるスポーツではなく、「全員参加」、延いては「世界平和」という「思い」や「願い」を持った「ふうせんバレーボール」という素晴らしい日本発祥の文化を紹介できれば、この上ない喜びです。

ソロプチミスト日本財団「社会ボランティア賞」受賞

ガイドボランティアサークル
ゆう・あい 代表　榎　正寿

11月11日、高松市サンメッセ香川に、ソロプチミスト会員と受賞関係者、約二千三百名の方が集まり、ソロプチミスト日本財団贈呈式が盛大に行われましたが、規模の大きさには驚かされました。ドリーム賞のiPS細胞網膜再生研究開発リーダーの高橋政代様を筆頭に、社会に貢献している96件の団体・個人が贈呈を受けました。当会「ゆう・あい」は、社会ボランティア賞を受けました。社会ボランティア賞は、全国から58件が受賞。日本南リジョン（九州エリア）代表として選ばれ挨拶しました。受賞とともに代表挨拶の機会を得られたことを光栄に感じました。この栄誉は、これまで「ゆう・あい」を支えていただきました北九州市障害福祉ボランティア協会をはじめ、障害福祉関係の方々と、視覚障害当事者の皆様のお陰です。感謝申し上げます。5つのブロックに分かれ昼食交流会が催されました。私の席には、母国スリランカの少年の育成に貢献し、日本高校野球で審判も行うスジーワ様。ご自身に障害がありながら、カンボジアなど海外の障害者を支援する刀根様。北九州市を明るく元気にする会の泊様がおられ、日本南リジョンの方々と交流をしました。互いに声を掛け合い話が盛り上がりました。様々な問題にも挫けず頑張っておられ、皆さんに励まされました。直接お会いし対話することの大切さをあらためて感じました。

ボランティアとしての実感～国際車椅子バスケットボール大会

会場運営班サブリーダー　森下 佳祐

11月13日～15日の三日間、第12回北九州チャンピオンズカップ　国際車椅子バスケットボール大会が行われました。運動が好きな私ですが、バスケットボールだけは苦手…。そんな私でも会場内を歩いていると、ついつい足を止めて選手たちの熱いプレーに目を奪われてしまいます。

私は会場運営班のボランティアとして参加させてもらって、今年で2年目です。他のリーダー・サブリーダーさん方と比べるとまだまだひよっ子です。コミュニケーションの面でも、経験の面でも不足している点が多いです。なので、今年参加された方々と同様に緊張しながら大会本番を迎えました。

今年の参加者は、去年ほどではないにしろ多くの方が初参加ということでした。中にはボランティア自体初めてという方もおられました。そんな方々は慣れない環境の中、自分に割り当てられた仕事に対して頑張って取り組んでおられました。私自身も初めてのサブリーダーということもあって、去年のボランティアとは違うのだということを頭に入れて活動させてもらいました。

そんな私にも周りのリーダー・サブリーダーさん達よりもできるのだと思っていたことが1つありました。それは「新しい目線」です。殆ど初参加の様な私は、少しだけ目線や気持ちが「初参加」。初めての方々にしか感じられない「緊張」や「戸惑い」、そして「気づき」は、どれも今大会のみならず今後の大会にも繋がる部分となります。私は緊張や戸惑っているボランティアさん達に、積極的に話しかけて皆で活動をしていくことを心掛けました。気づき、に関しては他の方では気づきにくい点で今後に活かせるポイントを探していました。

初めてだと「緊張しなくていいよ」と言われてもやはり緊張してしまうものだと思います。その時には私達のような車椅子バスケットボールに関わって数年という人達がボランティアさんに寄り添って共に活動を盛り上げていきます。まだまだひよっ子な私ですが、今年一緒に活動した方や、来年新しく顔を合わせる方々と笑顔で大会運営が出来ることを楽しみにしています。

宮﨑浩さんは、当ボランティア協会の理事です。
このコラムは、宮﨑さんの体験を通した思いをつづったものです。

ボランティア物語 −80−

『権利』って②

宮﨑　浩

「今を生きる僕たちが有する『right』。何と訳したらいいのだろうか。」というのは、前号の宿題。

「right」とは、明治時代、西周（にしあまね）により「権利」と翻訳された言葉。

でも、やっぱり、この言葉の響きは、好きじゃない。

権力、権威、権限の言葉の後には、「かざす」と付けれるし、「権利」をひっくり返せば「利権」になる。

あの福沢諭吉も「『権利』と訳したならば、必ず未来に禍根を残す。」と反発した。

そして、福沢諭吉は、『通理』、『権理』、『通義』との言葉で「right」の概念を表現したけど、結局、「権利」という言葉の方が、社会に浸透してしまった。

さて、前号の宿題について、僕なりの答えは、「いっそのこと、カタカナ言葉で、格好つけて言っちゃえ。」

「ライツ」って。

開国した明治時代、西洋列強の植民地にならないよう、外国語を翻訳し、新しい日本語が作られていった。

でも、今や、外国語の方が、そこらに氾濫している。

また、僕たちは、普通に「ライツ」と言っている。

車を誘導する時、野球でフライを捕球する時のそれ。

「オーライ、オーライ」。

英語でいう「all right」。

「君は、進んでも大丈夫」。

「僕が、ボール捕るから大丈夫」と声をかけている。

「君は、してもいいよ」、「僕は、してもいいよ」というところに「right」の本来の姿が見えてくるようだ。

だから「ライツ」って、心に秘めて置く物じゃない。

「権利」と肩肘張らずに、「ライツ」って、それこそライトに表明するがいい。

これが根付けば、きっと、世の中、大きく変わる。

北九州市福祉のまちづくりネットワーク（リレーレポート㉗）

小倉駅周辺の道路点検に参加して

視覚障害者福祉協会　澤田　ハツエ

10月16日、小倉駅周辺の道路点検を「まちネット」のメンバーと市役所の職員さんもたくさん参加して、一緒に点検をしました。晴れた日の午後は直射日光で汗ばむひと時でした。私は北口のグループで2階のペデストリアンデッキをAIM（エイム）の方へ歩いて行きました。広々として歩きやすい空間でした。動く歩道にも乗りました。始めと終わりは音声で案内してくれます。点字ブロックもわかりやすいと思いますが、私は盲導犬と歩くのであまり点字ブロックを頼りませんから詳しいことは書けません。

AIMのところから階段で下へ降り歩道を歩き始めました。

西日本総合展示場・国際会議場そしてこれから作られる北九州スタジアム、リーガロイヤルホテル、ここが北九州市の中心である。なんと整備されていることだろう。若松の田舎から出てきた者にはどこか知らないところへ行った気分でありました。

ゆったりした広い歩道は視覚障害者にとっては点字誘導ブロックが頼りである。1箇所、間違いやすい点字ブロックがあり、元横断歩道の点字ブロックが取り外されていなかったようで、それは近いうちに撤去するようです。ほかの皆さんが改善点をたくさん見つけておられましたが、私は見えませんのでほとんど役に立たなかったと思っています。自分自身は説明してもらいながらとても楽しいひと時でした。

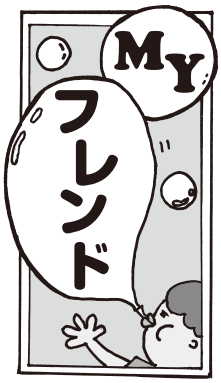
視覚障害者みんなにこの中心街を自分たちの足で歩いて欲しい。きっと新鮮な驚きを覚えるだろう。

広告

SKC 会計グループ
税理士法人 SKC
税務代理業務　・　税務相談業務

〒806-0011　北九州市八幡西区紅梅二丁目9-16
TEL. 093-645-0129／FAX. 093-645-0070
http://www.skc-tax.or.jp/

グループ会社
株式会社さかい経営センター　株式会社SKC計算センター
一般社団法人 相続・贈与相談センター北九州
（岩本英俊行政書士事務所）



ふうせんバレー やってます。

大平（おおひら）　美代（みよ）さん

―ボラ協入職は―

正式には十一月二日から。引き継ぎのため十月中旬から来ています。

―担当事業は―

北九州市障害福祉情報センターの運営で、主に「いべんとアラカルト」と「ひこうせん未来」の発行です。11月号はどちらも前任者に教えてもらいながら、一緒に作りました。

―発行の流れはわかりましたか―

編集会議で記事の内容と執筆者を決め、交渉し記事を集めます。印刷業者から返ってきた初校は、私たちが作った原稿よりスッキリしており、さすがプロだと感激しました。

―求職活動は―

ハローワークの求人票で見つけました。自宅の近くで土日休みなど、勤務時間の条件が合ったので、インターネットでボラ協のことを調べました。

―今までボランティア活動は―

娘の小学校での様子を見たいという不純な動機で「読み聞かせ」を始め、約十年間続けています。「ひこうせん」というグループで週一回小学校、月一回児童館で活動を行っています。自分が好きな絵本を選びます。基準は教訓めいてないこと。将来は「絵本作家になりたい」と考えています。

―障害者との関わりは―

九州工業大学附属図書館に採用された時、障害がある人が同期で入りました。その人に「ふうせんバレー」に誘われて参加しました。最初の印象は「体を全く動かすことができない人やスポーツをしたことのない人が楽しそうにプレーをしている」ということ。私自身もすごく楽しかったです。障害者とか健常者とか区別することなく、選手として一緒にプレーし楽しむことができます。助け合って介助もします。ルールを考えた人はすごいと思います。自分が活動している「ふうせんバレー」が団体としてボラ協の会員であることを知り、縁を感じました。

―ご家族は―

夫と中三の娘の三人です。娘は反抗期。「ただいま」を言わないこともあります。将来に大きな夢を持っているようですが、自分らしく生きて欲しいと願っています。夫は人見知りで無口な性格です。家族一緒に週一回は本屋に行きます。

―趣味は―

詩吟を二十五年間続けています。歌仲間のご主人が、詩吟の先生をしていたことが、きっかけです。

―出身は―

宮崎県出身です。夫の転勤で北九州市に住んで十年になります。年三回、盆・正月・ゴールデンウィークに帰省します。

―ボラ協でやりたいことは―

ボラ協での仕事や活動を通じて、障害者を自然に介助し、遠慮なく介助を受けられるような関係作り、障害者や健常者を分けない社会作りを目指したいですね。

＊　＊　＊

聞き手　森山　幸恵

広告

誠実な医療と地域の健康・福祉に貢献します
医療法人 しょうわ会

整形外科を中心とした救急・急性期病院
正和中央病院
〒807-0856
北九州市八幡西区八枝三丁目13番1号
TEL　093-602-1151

運動器・脳血管疾患の回復期リハビリテーション病院
正和なみき病院
〒806-0037
北九州市八幡西区東王子町13-1
TEL　093-644-0756

しょうわ会 介護部門
短時間型通所リハビリテーション　TEL(093)644-0756
通所リハビリテーション しょうわ　TEL(093)603-7892
訪問リハビリテーション　TEL(093)644-0774
居宅介護支援事業所 フォレスタ ケアマネステーション　TEL(093)622-0180

平成27年度　みんなの研修会
みんなで今後の取り組みを話し合おう!

1.日　時／平成28年1月16日（土）　13:30～16:00
2.会　場／ウェルとばた8階　81･82会議室
3.テーマ／「今年も楽しいアイスブレイクと28年度事業の取り組みについて」
4.内　容／
1部　楽しく役に立つアイスブレイク
～コーヒータイムとおいしいお菓子～
2部　パネルディスカッション「活動していくための課題」
3部　ワークショップ　グループで話そう!
「平成28年度事業計画案の作成」
5.参加費／100円（お菓子代、飲み物代含む）
6.参加締切／1月9日（土）

北九州市パソコンサポーター養成講座
障害のある人のパソコン利用を支援するサポーターになりませんか!

1.日　時／平成28年2月3日（水）～3月19日（土）　全12回
2.会　場／北九州市立東部障害者福祉会館研修室6C（ウェルとばた内）
3.内　容／
各種障害に関する基礎知識と配慮についてや障害のある人に対するパソコンサポート技術の知識（講義）、パソコンサポート技術（実技）について　など
4.費　用／資料代として2,500円
5.申込期間／平成27年12月15日（火）～平成28年1月26日（火）

どちらもお申込は、電話･FAX･メールで、北九州市障害福祉ボランティア協会　事務局まで
TEL:093-882-6770　FAX:093-882-6771　MAIL:XLZ02133@nifty.ne.jp

チャリ～～ン

ボラ協正会員　永松　玲子

さぁ皆さん、このいきなりの擬音語は何でしょう。この擬音語は空き缶に硬貨を入れる音です。1981年国際障害者年の翌年、1982年にボラ協が発足し、その総会の際に希望する会員に配られた、ボラ協キャラクター「ボラちゃん」が描かれた可愛い空き缶募金箱です。発足当時からの会員の方は、この空き缶募金箱は懐かしいのではないでしょうか。

実は私もボラ協発足当時からの会員で、最初の定期総会から一会員として出席していました。あの頃は社会に出たばかりの本当にひよっこでした。えっ、年齢ですか?それは企業秘密です。（笑）

今回原稿を書かせてもらったのは、ボラ協内でのたわいのない話の中で、私が缶コーヒーを飲みながら思い出したことがきっかけでした。

「そういえば、ボラ協発足時、空き缶募金箱しょったよねぇ」「あれ、いつからなくなったと?」って思わず聞きました。

もちろん、今いる職員さん達は空き缶募金箱を知らない人がほとんどを占めているのですが、唯一知っている職員さんが、「懐かしいねぇ。配ったねぇ」「いつ頃からやめたのか憶えてないけど…」と振り返っていました。

「もうあの空き缶募金箱、会員に呼びかけたりしてみらんと?希望する会員に限定してしまうけ、あの発足当時みたいにたくさんの会員さん達が希望せんかもしれんけど、預かってくれるかもよ」って言ってみました。職員さんからは特に返事はなかったのですが、私はもう一度やってみたいなぁって思いました。

発足当時からの会員だからでしょうか、何となくボラ協の存在に愛着があり、無理がない募金は時々したいと思っているので。

空き缶募金箱、1日1円でもけっこう楽しいですよ。

広告

Yamauchi Hideki licensed tax accountant office

山内税理士不動産鑑定士事務所
株式会社　北九州会計事務所
税理士　山内　英樹
〒802-0014　北九州市小倉北区砂津1-3-18
TEL　093-541-0035
FAX　093-541-0038

ご協力・ご提供ありがとうございました。（敬称略）

○ご寄付（公益社団法人への寄付は、寄付控除の対象となります）

佐野　哉夫

○使用済み切手・テレカ・ハガキなど

有馬　和子　宇野久美子　公文真理亜　高橋　朱美
田村　武子　中西みどり　古橋千寿子　横田美津子
鹿島道路株式会社　新ケミカル商事株式会社
北九州市保健福祉局保護課　北九州中央高等学園
永犬丸西市民センター　永犬丸市民センター
八幡西区役所保健福祉課　戸畑区身体障害者福祉協会

書き損じハガキ、年賀状収集のご協力のお願い

この時期は年末に向けて、そろそろ皆さまも年賀状の準備をされていることと思います。

万が一、書き損じなど出ましたら、ボラ協で活用させてください。

手数料を払えば、郵便局でハガキや切手と交換することができます。ボラ協では通信費削減のため収集しています。

ご協力をお願いします。

※今年も一年間ボラ協を支えてくださり、ありがとうございました。

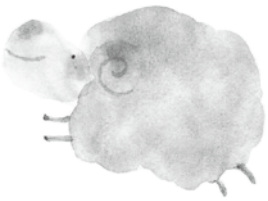
協会カレンダー

12月

5日（土）障団連・障害者週間　街頭啓発キャンペーン
7日（月）中間支援組織連絡会コーディネーター研修
14日（月）福祉のまちづくりネットワーク点検活動（折尾駅周辺）
15日（火）会報第202号発行
22日（火）障害福祉団体連絡協議会 北九州市との意見交換会
24日（木）障害福祉団体連絡協議会常任委員会
26日（土）第23回ホリデースクール
　きょうだい児のためのお楽しみ会（共催事業：KRASH）
28日（月）仕事納め

1月

4日（月）仕事始め
13日（水）常任委員会
15日（金）障害福祉団体連絡協議会新春交流会
16日（土）みんなの研修会
20日（水）北九州市福祉のまちづくりネットワーク定例会
23日（土）障害者余暇支援者連絡会
27日（水）第13回障害者パソコンサポーター養成講座説明会
28日（木）障害福祉団体連絡協議会常任委員会

2月

3日（水）第13回障害者パソコンサポーター養成講座開講式（全12回）
15日（月）会報第203号発行